

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 北海道岩見沢市 |
| 氏名 | 樋口 幸治 |
| 活動名称 | 障がい者スポーツの支援・普及 |
| こんな活動です | ボッチャの普及・発展、選手の育成・指導 障がい者スポーツ全般の振興 |
| 連携している団体等 | 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、 中等教育学校、特別支援学校、 行政（スポーツ部局、保健福祉部局、教育委員会） |

功 労 者 表 彰

| |
|--------|
| 活動分野 |
| スポーツ |
| 主な対象 |
| 重度障がい者 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>近年、重度障がい者スポーツの競技種目として注目されているボッチャは、昭和63年（1988年）のソウル夏季パラリンピックより正式競技として採択されています。</p> <p>平成12年（2000年）の北海道ボッチャ協会設立当初から理事長として、永年に渡り競技の普及・発展に尽力し、道内選手の育成や指導に携わっています。</p> <p>平成24年から平成29年には、日本ボッチャ協会副会長として、国内での競技普及にも携わり、ボッチャ世界選手権大会、ボッチャワールドカップ、日本ボッチャ選手権大会など、国際大会等にもコーチとして参加し国内選手の競技力向上にも努めてきました。</p> <p>また、より多くの方々がボッチャ競技を楽しめるよう、道内各地において講習会や審判研修会を開催し、講師として実技指導にあたるとともに、ボッチャは障がい者も健常者も一緒に楽しめるスポーツとして、その理解と普及にも努めています。</p> |
| ②活動体制 | <p>現在も、北海道ボッチャ協会理事長、中級障がい者スポーツ指導員として、道内各地で選手の育成・指導、体験会・研修会の開催、指導者講習など多方面で精力的に活動しています。</p> <p>また、北海道障害者スポーツ指導者協議会理事を務め、全国障害者スポーツ大会への参加や、北海道パラアスリート発掘プロジェクト実行委員会委員としても活躍しており、ボッチャのみならず障がい者スポーツ全般の振興にも携わっています。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>国内または北海道内においても、ボッチャの競技者人口は増加しており、その普及・振興に大きく貢献しています。</p> <p>また、重度障がい者にボッチャ競技を通じてスポーツの素晴らしさを伝えることに尽力することで、障がい者の社会参加の促進に貢献しています。加えて、全国各地での大会運営に携わるほか、審判員や指導者の育成、講習会等の講師としても広く活躍し、オリ・パラ教育の面でも、2020年のパラリンピックに向けて、スポーツ庁主催の全国展開事業に、北海道内ではパラアスリート発掘プロジェクトに参加し、ボッチャ競技の知名度や地位向上にも貢献しています。</p> <p>更に、中級障がい者スポーツ指導員として体験会、研修会、指導者講習など多方面で活躍されており、地域の障がい者スポーツ振興のリーダーとして、北海道内の障がい者スポーツ全般を牽引する役割も果たしています。</p> |

活動の様子



指導者講習会の様子（1）



指導者講習会の様子（2）

プロフィール

| | |
|-----------|--|
| 所在地 | 北海道札幌市 |
| 団体名 | 「いっしょにね！文化祭」実行委員会 |
| 活動名称 | 障がい者の文化活動の推進、障がい理解の促進 |
| こんな活動です | 障がいのあるひと ないひと いっしょに楽しむ発表会 |
| 連携している団体等 | 高等学校、特別支援学校、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（保健・福祉部局）、三角山放送局（地域FM局）、北翔大学、（公財）北海道文化財団、（公財）太陽財団 |

奨励者表彰

| | |
|-------|---------|
| 活動分野 | 文化 |
| 主な対象 | 障害種間問わず |
| 団体の規模 | 会員数 7名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>障がいのある人たちと健常者たちがパートナーを組んで活動している団体が、お互いの日々の研鑽の成果を発表しあう生涯学習発表の場「いっしょにね！文化祭」を、平成26年から毎秋の1日、札幌市内で連携する大学側の協力を得て開催しています。</p> <p>当日は、ダンス、歌、バンド演奏などのステージパフォーマンスの他、絵画や工芸品などの作品展示を行っています。3回目までのステージパフォーマンスでは参加団体毎の発表だけでしたが、平成29年からは、団体同士が協働する合同パフォーマンスを創作、発表するなど、参加団体、来場者の交流の深化がさらに深まるきっかけづくりの場になっています。</p> <p>特に、開催までに参加団体が集う会合を重ねることで、日頃から当事者同士の顔が見える関係づくりに力を入れています。さらにここ数年、参加している各団体へ、この文化祭への来場者や地域の各種団体からさまざまなイベントやお祭りへの参加を要請されるなど、お互いを認め合う共生社会づくりに結び付いています。PR面では連携している地域FM局やSNSを活用した情報発信によって、より多様なつながりの接点を拓けるようにしています。</p> |
| ②活動体制 | <p>実行委員会にはNPO法人を中心に、障がい者支援団体や障がい者当事者団体、医療機関、大学などが参画するとともに、「いっしょにね！文化祭」の開催にあたって、数多くの企業や団体の協賛・協力を得ています。平成29年度からは、（公財）北海道文化財団の共催事業として実施しています。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>文化祭の開催に向けて、出演者ミーティング（参加団体内の事前発表会）や会合を重ね、準備段階から障がいの有無にかかわらず、参加・出演する人たちが交流を深め、一緒に楽しみ、助け合いながら創り上げていくという過程を重視しており、障がい者の文化芸術活動への参加意欲の喚起、健常者の障がい者に対する表現活動への理解の深化、障がいを持つ当事者と支援する各団体を繋ぐ交流機会の場として「いっしょにね！文化祭」は、共生社会の形成という面で、道内、札幌市圏域で共感の輪を拓けています。</p> <p>また、毎回、趣旨に賛同する多くの企業や団体と連携や協力を得る事ができ、参加団体数も増加しています（H26年第1回時ステージ発表11団体、作品出展14団体⇒H30年第5回時ステージ発表16団体、作品出展18団体）。新聞などのマスコミで取り上げられる機会も増えてきており、この取組の地域への理解・普及がさらに進んでいます。</p> |

活動の様子

| | |
|---|--|
|  |  |
| 出演者ミーティング（事前発表会）の様子 | 文化祭出演者全体による合同パフォーマンスの様子 |

プロフィール

| | |
|---------------|--|
| 所在地 | 青森県上北郡野辺地町 |
| 氏名 | 福沢 和彦 |
| 活動名称 | 「ボッチャ」「フライングディスク」を通じた 障害者スポーツの支援 |
| こんな活動です | 生きがいや健康づくりを支える障害者スポーツ活動 |
| 連携している 団体等 | 中学校、高等学校、特別支援学校、大学、PTA、 社会教育関係団体、スポーツ団体、社会福祉法人、 行政（教育委員会、福祉部局） |

功 労 者 表 彰

| |
|------------|
| 活動分野 |
| スポーツ |
| 主な対象 |
| 知的障害、肢体不自由 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>昭和56年、現在の勤務先である障害者支援施設を利用している障害者と青森県障害者スポーツ大会に参加したことをきっかけに、障害者の生きがいや健康づくりを支える障害者スポーツ活動に携わるようになった。特に、重度の障害者でも楽しめるボッチャと出会い、その体験普及活動を通して、現在も生涯スポーツの楽しさやすばらしさを伝えている。昭和59年に障害者初級スポーツ指導員を取得したのを皮切りに、これまでに障害者上級スポーツ指導員、ボッチャ初級指導者、障害者フライングディスク公認指導者1種等、多くの資格を取得しながら、障害者スポーツの支援及び普及活動に当たっている。</p> <p>全国障害者スポーツ大会をはじめとする国内の各種大会に、監督・コーチ、介護人として数多く参加し、大会中は必要な介護以外は障害者自身にさせることで自立心や生活力の向上につながっている。また、この経験を障害者及び家族に伝え、積極的にスポーツ活動への参加をサポートした。</p> <p>平成14年には青森県ボッチャクラブを設立し、代表に就任。平成18年には青森県障害者フライングディスク協会を設立し、会長に就任。障害者スポーツの組織的な競技活動、普及活動等にも貢献している。</p> |
| ②活動体制 | <p>主に青森県内において、ボッチャ、フライングディスク等の体験普及教室を受け付けており、昨年度は10回以上の研修会に講師として招聘され、障害者と健常者の交流や障害者スポーツの理解と普及活動に尽力している。青森県障害者スポーツ指導員会の会長として、他の指導員にも声をかけ、可能な限り共に訪問して研修を進めている。自ら指導員対象の研修会や講習会に参加し、学んだことを広く後進に伝え、その育成にも努めている。障害者スポーツの各種大会にも、会員らと共に、積極的に参加している。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>障害者がスポーツ活動を行うことを通じて、健康維持・体力向上はもちろん、自立心や生活力の向上を促し、生きがいをもって生活することにつながっている。また、保護者や教員、地域住民に対して障害者スポーツを紹介する活動が、障害のある人への理解と認識を深め、共生社会の実現に寄与している。</p> |

活動の様子



ボッチャ体験（平成30年度スポーツ推進委員等上北地区研修会より）

プロフィール

| | |
|-----------|--|
| 所在地 | 青森県青森市 |
| 氏名 | 野澤 英二 |
| 活動名称 | 障害者の生涯スポーツ体験学習への支援 |
| こんな活動です | だれもが楽しく参加できるスポーツの場づくり |
| 連携している団体等 | 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、スポーツ団体、NPO法人、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、福祉部局） |

功 労 者 表 彰

| |
|------------|
| 活動分野 |
| スポーツ |
| 主な対象 |
| 知的障害、肢体不自由 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>自らの車椅子利用者としての体験を基に、スポーツの楽しさや健康・体力づくり、仲間づくりを推進するために、障害者スポーツ指導員の資格を取得し、青森県身体障害者福祉センターねむのき会館の体育館を会場に「スポーツ教室」を初めて開催した。現在も、同センターでは多くの障害者スポーツが実施されている。この「スポーツ教室」において、参加者個々の障害の程度や力量を的確に把握し、障害者本人に適したスポーツやその競技力の向上に向けて、楽しい雰囲気の中でサポートするなど、指導員やボランティアのよき手本となっている。また、選手強化合宿では、長野パラリンピックの銀メダリストとしての豊富な経験を基に、競技者の育成や指導にも携わっており、支援するスポーツ指導員やスポーツボランティアのリーダーとして活動している。NPO法人青森県障害者スポーツ協会の設立に尽力し、現在も副理事長として県内障害者スポーツの発展に取り組んでいる。</p> |
| ②活動体制 | <p>「スポーツ教室」では、ニュースポーツの体験や紹介なども行っており、家族が参加できる「スポーツフェスティバル」を開催するなど、生涯スポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいる。また、パラスポーツの普及のため、青森県内の特別支援学校を訪問し、スポーツ体験指導を継続している。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>個々の体力や能力に合わせた障害者スポーツに親しみ、家族や一般の参加者とスポーツを通じた会話や交流を楽しむ活動の継続が、障害者スポーツチームの結成や仲間づくり、障害者スポーツ人口の拡大へとつながっている。新たなスポーツボランティアや指導員が年々増加しており、障害者スポーツの普及とともに、県民の障害者への理解も広がっており、生涯学習活動と福祉増進に大きく貢献している。</p> |

活動の様子



みんなで楽しいニュースポーツ！



親子でフライングディスクに挑戦！

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 岩手県下閉伊郡山田町 |
| 団体名 | 山田町朗読ボランティア |
| 活動名称 | 声の広報（広報やまだ音声訳ボランティア） |
| こんな活動です | 視覚障害者に対し、広報やまだ及び福祉のひろばを音声録音したテープを届ける活動をしています。 |
| 連携している団体等 | 保育所、小学校、公民館、図書館、社会福祉法人、行政（総務課、町民課）、日本郵政（株） |

功 労 者 表 彰

| | |
|-------|------------|
| 活動分野 | 町広報等の朗読録音 |
| 主な対象 | 町内在住の視覚障害者 |
| 団体の規模 | 会員数 13名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>○「声の広報」活動 町内の視覚障害者に、毎月2回発行される町広報を朗読・録音した音声テープを届け、町の様々な情報を提供している。 また、時節に応じた音楽を盛り込むなど、利き手側に配慮した音声テープづくりに取り組んでいる。</p> <p>○「福祉のひろば」音声録音データの提供 町社会福祉協議会から年4回発行される「福祉のひろば」について、平成30年から音声録音データの提供を行っている。</p> <p>○利用者交流会 年1回利用者を招いての交流会を開催し、意見交換や共に学ぶ機会を設けている。</p> <p>○町内の小学校、保育園及び図書館等における読み聞かせ会</p> |
| ②活動体制 | <p>13名の会員が、毎月1回役割分担をしながら町の広報等の朗読と録音を行っている。 また、聞きやすい音声を届けるため、録音前には練習会を開催している。また、県の研修会に参加するなど、活動の質の向上を図っている。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>町の広報等を読むことのできない視覚障害者に、広報やまだや福祉のひろばの内容を録音したテープを提供することにより、利用者からは様々な情報を得ることができ、町の様子が分かり唯一の手段であると好評を得ている。</p> |

活動の様子



録音風景（町中央公民館視聴覚室）

毎月1回、役割分担を決めて朗読・録音を行っている。



利用者交流会（町中央コミュニティセンター）

利用者を招待して交流会を開催している。ボランティアと直接会話をすることで、音声録サービスを身近に感じてもらえる機会となっている。

プロフィール

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 所在地 | 岩手県久慈市 |
| 団体名 | 障がい者観光サポーターの会 |
| 活動名称 | 障がい者観光サポーターの会 |
| こんな活動です | 障がいのある人もない人も、 久慈地域の観光を楽しもう！ |
| 連携している 団体等 | 小学校、中学校、社会福祉法人、 行政（教育委員会、保健・福祉部局） |

奨励者表彰

| | |
|-------|--------------------------|
| 活動分野 | 学習、スポーツ、文化 |
| 主な対象 | 久慈地域を観光で訪れる 障がい者とその家族 |
| 団体の規模 | 会員数 14名 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>○障がいのある方が観光、行事等へ参加する際のサポート支援 身体が不自由な方が観光で久慈を訪れた際のサポート及び市文化会館等での催し物（コンサート・ピアノマラソン等）に参加する際のサポートを行っている。</p> <p>○観光施設、市内各地のバリアフリー点検活動 外出や地域交流を促進するため公共施設などを訪問し、点検や体験活動を実施。</p> <p>○社会福祉教育出前講座（主催：久慈市社会福祉協議会） 市内小中学校において、白杖の使い方の説明や、「アイマスク」をかけホールや階段を使つての白杖体験、車いすの正しい使い方、介助方法などのキャップハンディ体験、高齢者疑似体験を開催している。</p> <p>○その他普及啓発活動 ・ふれあい福祉まつりにおける障がい者疑似体験イベントの開催。スポーツフェスタでの支援等。 ・災害義援金・募金活動の実施。 ・定期的な救命救急法（AED含む）講習の受講。</p> |
| ②活動体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者観光サポーター養成講座の修了者等14名が活動を行っている。 ・会員の知識やスキルの向上を図るため、毎月勉強会を兼ねた定例会を開催している。 |
| ③活動の効果等 | <p>岩手県県北広域振興局や久慈市社会福祉協議会などと連携した企画や活動を実施し、「既存の施設でいかに人にやさしい支援ができるか」を重視する取組を行っている。</p> |

活動の様子



福祉教育出前講座の様子

市内小・中学校等において出前講座を行っている。



久慈市ふれあい福祉まつりの様子

疑似体験ブースを設け、市民とふれあいながら普及啓発活動を行っている。

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 秋田県北秋田市 |
| 団体名 | 北秋田市障害者生活支援センター「ささえ」 |
| 活動名称 | 北秋田市障害者生活支援センター「ささえ」 |
| こんな活動です | 障害のある方やその家族等が気軽に集える自由来館の場。障害者地域活動支援センター、障害者虐待防止センター、相談支援事業所等の機能を兼ね備えている。 |
| 連携している団体等 | 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、公民館、図書館、PTA、社会教育関係団体、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、総合政策課）、民生委員児童委員協議会、ボランティア団体 |

功 労 者 表 彰

| | |
|-------|---------------------|
| 活動分野 | 学習、文化、カフェ |
| 主な対象 | すべて (主に知的・精神・身体) |
| 団体の規模 | 職員数 5名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>①自立に向けての支援個別プログラム②一般相談から福祉サービス計画相談まで24時間体制での相談支援③交流会や学習会、ボランティア活動支援、当事者の会支援など④住まい、福祉機器など地域で生活するための支援を幅広く、奥深く行っている北秋田市唯一の生活支援センター。当事者や保護者の要望により平成19年度北秋田市の指定管理事業として開設。</p> <p>特に、余暇支援は長年の課題であり、自分達を知ってもらうためにはどうしたら良いかをみんなで話し合い、積極的に地域の行事やボランティア活動に参加している。平成30年度からは、障害者の生涯学習推進事業のパイロット団体として委託を受け、さらに余暇支援活動に力を入れて取り組んでいる。地域のだれもが気軽に集えるカフェがほしいという当事者の声から始まったCafé活動を中心に、障害理解とボランティア育成という課題も含めた取り組みをしている。</p> |
| ②活動体制 | <p>障害者生活支援センター開所時間 月～金 8:30～18:00 土 8:30～15:00 (電話対応は24時間) 地域のイベント等でCafé活動(随時)※土、日に多い 第3日曜日 当事者の会(光の会)活動支援</p> |
| ③活動の効果等 | <p>将来的には重度の障害のある方が集える場所作りにつなげていきたいという意識をもちながら、Café活動を地域に周知していくため、地域のイベントや会議などに積極的に参加している。ささえCaféのコーヒーは心がこもっていて美味しいとコメントをいただいたり、イベントに呼んでいただいたりすることも増えた。活動している当事者が、自分の淹れるコーヒーが美味しいと誉められ、自信をもつことで変化、成長してきている。</p> |

活動の様子



コーヒーバリスタによるコーヒーの淹れ方講座



あきたほくようこうこう
秋田北鷹高校学園祭 JRC委員会とコラボ

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 秋田県秋田市 |
| 団体名 | 秋田県特別支援学校体育連盟 |
| 活動名称 | 秋田県特別支援学校体育連盟強化選手育成に係る取組を通じた生涯学習支援 |
| こんな活動です | 夢の実現につなげる、スポーツによる生涯学習 |
| 連携している団体等 | 特別支援学校、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、諸団体（ブラウブリッツ秋田を含むスポーツ関係5団体） |

奨励者表彰

| | |
|-------|----------------------|
| 活動分野 | スポーツ |
| 主な対象 | 知的障害 |
| 団体の規模 | 加盟校数 15校 スタッフ 18名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>○主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> バスケットボール（男子・女子）・サッカー（男子）の強化チーム（県選抜）を編成し、全国大会等での上位入賞を目指して定期的な練習に取り組んでいます。 今年度は各チーム合わせて52名（卒業生38名、在校生14名）の選手への支援を行っています。 <p>【内訳】 男子バスケットボール : 卒業生 9名 在校生 3名 女子バスケットボール : 卒業生 7名 在校生 4名 男子サッカー : 卒業生 22名 在校生 7名</p> <p>○主な成績</p> <ul style="list-style-type: none"> 男子バスケットボール「2019FID ジャパン・チャンピオンシップバスケットボール大会 初優勝」 女子バスケットボール「平成18年から14年連続 全国障害者スポーツ大会出場」 サッカー「2019 東北 FID サッカーリーグ 初優勝」（「2020 全日本知的障害者サッカー大会」初出場へ） <p>○活動における工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女バスケットボールは、社会人チームや他県クラブチームとの合同練習を行っています。 サッカーは、東北 FID リーグ参戦・選抜合宿を通して、個々の競技力向上やスタッフの指導研鑽に努めています。 |
| ②活動体制 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校教職員によるスタッフ18名で支援を行っています。土曜日・日曜日を中心とした定期練習や遠征等を行い、全国FIDクラブ大会、東北FIDリーグ、全国障害者スポーツ大会等に出場しています。 本連盟主事業の「秋田県特別支援学校総合体育大会」の開催が、各校の部活動の発足、学校主催のスポーツ杯の企画に発展しています。強化チームでは、本連盟がチーム運営を統括し、東北FID連盟を含む関係機関・団体と連携を図り、生涯スポーツとしての発展・継承への方策を検討しながら活動を推進しています。 |
| ③活動の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の余暇活動や生涯スポーツの充実、各特別支援学校における部活動の活性化につながっています。また、全国大会等での上位入賞を目標とした活動は、規範意識等の醸成につながり、自立的な生活を支える学びとなっています。 県内には、特別支援学校卒業生の生涯スポーツを継続的に支える組織がない現状の中で、本活動はスポーツによる障害者の生涯学習支援のモデル的取組と言えます。 強化チームの社会人選手は全県各地の企業等に就労しており、就労先等の本活動への理解は、各地域における障害者理解の契機になっています。また、現在、特別支援学校在籍生徒及びその卒業生が主体となり活動していますが、県内中学校特別支援学級在籍生徒の選手発掘も検討しています。このことにより、特別支援学校高等部入学後の生涯学習の意欲向上につながり、ひいては、本連盟の活動のさらなる活性化が期待できます。 |

活動の様子



令和元年 FID バスケットボール大会
「初優勝」



令和元年 FID バスケットボール大会
「団結心で！」



令和元年北海道東北ブロック
サッカー大会「準優勝」

プロフィール

| | |
|---------------|--|
| 所在地 | 山形県山形市 |
| 団体名 | 山形県障害者スポーツ指導者協議会 |
| 活動名称 | 障がい者スポーツの普及と振興 |
| こんな活動です | レクリエーションスポーツで 誰でも楽しく 広がる共生社会 |
| 連携している 団体等 | 小学校、特別支援学校、児童館、PTA、 スポーツ団体、社会福祉法人、 行政（教育委員会、保健・福祉部局） |

功 労 者 表 彰

| | |
|-------|----------------------|
| 活動分野 | スポーツ |
| 主な対象 | すべて (主に知的障害、身体障害) |
| 団体の規模 | 事務局員数 1名 会員数 232名 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>当協議会は、障がい者スポーツの普及振興と障がい者の特性に応じたスポーツの指導体制の確立、指導者の資質と指導力の向上を目的として設立されました。会員の資質・技能向上、指導員の養成、アスリートの発掘・支援、関係団体への指導員の派遣協力などに取り組んでいます。</p> <p>気軽にレクリエーションスポーツに親んでもらうため、平成21年度から出前教室を開催しています。年々依頼件数も増え、近年では30件を超える依頼がきており、ポッチャやカローリングなどのスポーツを楽しんでいます。出前教室などにおいては、レクリエーション大会の新競技種目の効果的な普及も進め、周知を図っています。</p> <p>また、障がいがある方にも雪国ならではのウィンタースポーツを楽しんでもらうために、平成17年からバイスキー教室を開催しています。</p> <p>さらに、山形県独自の競技種目やルールの考案、用具の工夫を通して、競技に取り組みやすくなるように心がけています。障がいがある方がスポーツを楽しみながら、いろいろな人たちと交流を深めるとともに、スポーツを通して社会参加が促進される機会を作っています。</p> |
| ②活動体制 | <p>出前教室や、スポーツ教室に派遣している指導者は、当協議会の会員である指導員です。参加人数や会場の規模に応じて、各地域から会員を派遣しています。総合型地域スポーツクラブや市町村体育協会との協力体制のもと、競技の普及などの連携を図っています。</p> <p>冬のバイスキー教室では、地域の身障者団体やスキー場、スキークラブの協力のもと開催しています。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>出前教室は、参加者が集まりやすい日時、場所で行われます。時間や移動などの制約が少なく、参加者の負担が大きく軽減されるということがあり、開催を希望する団体は年々増加しています。気軽にスポーツを楽しむことができる機会になっていて、生きがいを持つことによる生活意欲の向上や充実感を持つことにつながっています。障がい者同士や支援者・一般参加者との交流の場にもなっており、障がいへの理解の促進にもつながっています。</p> <p>出前教室の参加者から、障がい者スポーツの指導員を目指す人もいます。</p> |

活動の様子

| | |
|---|--|
|  |  |
| 出前教室 | バイスキー |

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 福島県福島市 |
| 団体名 | 福島市中央学習センター しゃくなげ青年講座 |
| 活動名称 | しゃくなげ青年講座 |
| こんな活動です | 生活教養、レクリエーション、造形活動、まちの施設利用等の活動を通し、潤いのある生活を支援する。 |
| 連携している団体等 | 特別支援学校、社会教育関係団体 |

功 労 者 表 彰

| | |
|-------|--------------|
| 活動分野 | 学習、スポーツ、文化 |
| 主な対象 | すべて（主に知的障がい） |
| 団体の規模 | 70名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>福島市立養護学校との共催事業で、特別支援学校や特別支援学級を卒業した知的障がい者を対象に、余暇の有効活用のもと、豊かな生活体験や交流するための機会を提供することで、社会参加や自立を支援することを目的とした講座です。昭和44年に開設して昨年50年を迎えました。</p> <p>生活教養、レクリエーション、造形表現、その他の活動を年間13回程度開催しています。</p> <p>【運営方針】</p> <p>(1) 参加者同士、ボランティア等との交流を図りながら活動を支援する。</p> <p>(2) 生活教養、レクリエーション、造形活動、まちの施設利用等の活動を通し、潤いのある生活を支援する。</p> <p>(3) 運営にあたっては、本人の希望や保護者（家族）の意見を取り入れ、年間活動計画を立案し、学習活動を行う。</p> |
| ②活動体制 | <p>主 催 福島市中央学習センター、福島市立福島養護学校</p> <p>協力機関 社会福祉法人太陽学園、福祉レクリエーションネットワーク in ふくしま</p> |
| ③活動の効果等 | <p>受講生が学校で身につけた能力を活用する場として、また、受講生同士や協力者との交流、余暇の有効活用のもと学びの場を提供しているほか、学習の感想発表や次年度の企画立案の学習も行っています。</p> |

活動の様子

| | |
|---|--|
|  |  |
| 活動の様子の写真 1 | 活動の様子の写真 2 |

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 福島県伊達郡国見町 |
| 団体名 | 手話サークル「くりおね会」 |
| 活動名称 | 手話の学習支援及び普及活動 |
| こんな活動です | 手話の楽しさを知り、親しみをもっといただくことにより、手話への理解を深める活動を行っています。 |
| 連携している団体等 | 幼稚園、小学校、公民館、聴覚障害者協会、近隣の手話サークル |

功 労 者 表 彰

| | |
|-------|---------|
| 活動分野 | 学習 |
| 主な対象 | 聴覚・言語障害 |
| 団体の規模 | 会員数 10名 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>○『手話』は手や指を使い、聴覚障害者・ろう者の言語として必要不可欠な言葉です。</p> <p>当サークルは、平成7年2月に発足し手話の普及を目的に、アットホーム的な雰囲気の中で、会員どうしの情報交流の場としてサークル活動を行っております。</p> <p>これまでのサークル活動としては、以下の取組を実施してきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年7月に国見町観月台文化センター大ホールにて、耳が聞こえないろう者が主演の映画「アイ・ラブ・ユー」を上映。 ・平成13年11月にサークル初のバス旅行を実施。行先：福島県いわき市「アクアマリン」 ・平成16年9月に手話サークル「くりおね会」10周年記念手話コンサートを開催。 <p>歌にあわせ手話を用いて、音楽のニュアンス、喜怒哀楽を表現し、障害の有無にかかわらず音楽を楽しめるコンサートとして、国見町観月台文化センター大ホールで開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年6月～7月に「手と手で会話」と題し、国見町観月台文化センターにて手話教室を開催。 ・幼稚園や小学校からの依頼により、手話学習の講師派遣を実施。 |
| ②活動体制 | <p>○手話サークル「くりおね会」は、毎月第1・第3水曜日（19:00～21:00）に観月台文化センターにて、テキストを中心とした学習や、活動を円滑に行うための季節ごとの交流会や役員を配置しています。</p> <p>(1)会 長 1名 [会を代表し、且つ総括する] (4)事務局 1名 [会の運営に必要な実務を行う] (2)副会長 1名 [会長を補佐し、且つ代理する] (5)行事運営1名 [会の行事運営を行う] (3)会 計 1名 [会の収支を実務する] (6)連 絡 1名 [会員に的確な連絡を行う]</p> |
| ③活動の効果等 | <p>○手話の楽しさを実感しながら、少しでも多くの方に手話を学んでいただき、手話に対する理解を広め国見町の手話の普及を図る。</p> <p>○手話学習や障害者との交流を通して手話が使える人材育成を行い、これまでに複数名の会員が手話技能検定試験を受験し多くの合格者を輩出。</p> <p>○手話教室の受講がきっかけとなり手話サークルへ参加。</p> |

活動の様子



10周年記念手話コンサートの発表風景



サークルの学習風景

プロフィール

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 茨城県日立市 |
| 氏名 | 長野 正文 |
| 活動名称 | 障がい者のスポーツ活動支援 |
| こんな活動です | 障がい者スポーツを楽しもう！ |
| 連携している団体等 | 小学校、中学校、特別支援学校、スポーツ団体、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、社会福祉協議会 |

功 労 者 表 彰

| |
|--------|
| 活動分野 |
| スポーツ |
| 主な対象 |
| 障がい児・者 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>○活動のきっかけ 2歳の時に父を亡くし、母と姉弟4人で生活していたが、6歳の時に母が身体障がい者になってしまい、寝たきりの母と子供たちを母子福祉施設職員やボランティアの方々がずっと面倒を見てくれた。その人たちの様子を見て、自身も誰かのために役に立つ活動をしたいと考えるようになり、仕事が終わった後に保母スクールやレクリエーションスクールに通い、指導方法を学び、障がい者にレクリエーションを通して運動の楽しさを教えるようになった。</p> <p>○主な活動</p> <p>①「日立市ふれあい運動会」：障がい者を対象とした活動で、平成6年から毎年実行委員として企画・運営面に積極的にかかわり、参加者が楽しめる運動の工夫や安全への配慮、ボランティアの取りまとめ等を行っている。工夫点は、様々な障がいがある人たちが参加しているため、毎年障がいに応じた種目を改善しながら参加者により満足してもらえるように努めている。（H30の参加者総数約700名 内支援対象者約350名）</p> <p>②「スポーツレクリエーション教室」：毎年、日立市障害福祉課から依頼され、障がいのある子どもから大人向けにフライングディスクやボッチャ、卓球バレー等を指導している。工夫点は、運動ができない人には自作の道具を活用した種目（紙皿フリスビー等）を用意したり、自主的にできるゲームを考えさせたりしている（紙コップにボールを入れるゲーム等）。</p> |
| ②活動体制 | <p>○個人で小中学校や特別支援学校、スポーツ団体や行政機関から障害者スポーツの講師として依頼を受け、積極的に指導に行っている。今までの取組としては、各種障害者スポーツの指導や普及活動、障害者スポーツ大会の運営、障害者スポーツ団体の役員、全国障害者スポーツ大会の監督を行ってきた。</p> <p>○平成26年から障害者支援を目的としたボランティア団体「いばらき障がい者スポーツをひろめる会」の代表を務め、会員（現在5名）の指導者育成に取り組んでいる。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>これまで、日立市内の小中学校や特別支援学校、障害者施設等に障害者スポーツやレクリエーションの指導やスポーツ教室を行ってきた結果、口コミで広がり、年々講師依頼が増えてきている。最近では、個人からの要望もあり、調整しながらできることは引き受けている。さらに他市町村からも問い合わせがあることから、今後は、時間が許せば、日立市以外の地域にも自分のできる障害者スポーツを広めたいと考えている。（現在、2町村で指導実績あり）</p> |

活動の様子



活動の様子1



活動の様子2

プロフィール

| | |
|---------------|--|
| 所在地 | 栃木県宇都宮市 |
| 団体名 | あすなる青年教室実施委員会 |
| 活動名称 | 「あすなる青年教室」(15～30歳まで)、 「ひのきクラブ」(30歳以上) |
| こんな活動です | 交流と体験で休日をエンジョイ! |
| 連携している 団体等 | 宇都宮市内の中学校、特別支援学校、 宇都宮市教育委員会 |

功 勞 者 表 彰

| | |
|-------|------------|
| 活動分野 | 学習、スポーツ、文化 |
| 主な対象 | 心身に障がいがある方 |
| 団体の規模 | 実施委員数 17名 |

活動の説明

| | |
|---------|--|
| ①活動内容 | <p>中学校の特別支援学級や特別支援学校卒業後の障がい者の交流や余暇の活動の場を提供するため、昭和42年にあすなる青年教室が設立され、今年で52年目を迎える。また、平成19年度には30歳以上を対象としたひのきクラブも設立し、あらゆる世代に対応した活動を行っている。</p> <p>令和元年度のあすなる青年教室受講者は75名、ひのきクラブ受講者は36名である。</p> <ol style="list-style-type: none"> あすなる青年教室の主な活動内容（開講式、閉講式を含めて年9回実施） <ul style="list-style-type: none"> コース別活動・・・受講者が調理コース、スポーツコース、パソコンコース、ダンスコースの中から希望のコースを選択し、年5回の活動を実施。 体験コース・・・コース別活動として選択していない活動を体験し、他の受講者との交流を実施。 研修旅行・・・バスでの日帰り旅行を実施。 ひのきクラブの主な活動内容（開講式、閉講式を含めて年8回実施） <ul style="list-style-type: none"> 体験活動・・・調理、工芸、スポーツ、親睦ボウリングなどの活動を年6回実施。 活動上の工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 受講者の要望や反省を次年度の活動内容に反映する。 保護者にボランティアとしての参加を呼びかけ、保護者間の情報交換や交流の場にする。 受講者が増加したため、平成29年に体験コースを1コース追加した。 |
| ②活動体制 | <p>「あすなる青年教室実施委員会」は、宇都宮市内中学校の特別支援学級担任や特別支援学校教員、宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課、参加者の保護者等により組織されている。実施委員による会議を年2回開催し、運営方法や計画について適宜見直しを行うことで、継続的な取組となっている。企画・運営は中学校の特別支援学級担任が中心となって行っており、各活動の講師は、市内のパソコン講師ボランティア団体メンバー、調理教室主催者、スポーツインストラクターなど、障がい者の生涯学習活動に理解のある市民が務めている。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>本活動は特別支援学級や特別支援学校の卒業生の社会生活の充実に大きく寄与し、働く意欲にも繋がっている。さらに、様々な学習や体験活動を通して、生活に必要な知識や技術を学び、社会人としての自覚を身に付けている。また、特別支援学校を卒業後に障がい者が交流する場所が限られているため、受講者だけでなく保護者にとっても貴重な交流の場となっている。</p> |

活動の様子

| | |
|---|--|
|  |  |
| 調理コース：季節に合わせたメニューをグループで手作り。 安全面も配慮して支援者と一緒に活動。 | ダンスコース：振り付けを教えてもらい、音楽に合わせて みんなで楽しく♪「USA」のダンス。 |

プロフィール

| | |
|---------------|-------------------|
| 所在地 | 群馬県邑楽郡邑楽町 |
| 団体名 | おうら青年学級 |
| 活動名称 | おうら青年学級 |
| こんな活動です | みんなが主役になれる青年学級 |
| 連携している 団体等 | 公民館、行政（教育委員会）、消防署 |

功 労 者 表 彰

| |
|---------------------|
| 活動分野 |
| スポーツ、文化、 動物園見学など |
| 主な対象 |
| 軽度の知的障害のある青年 |
| 団体の規模 |
| 学級生・スタッフ 22名 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害のある青年たちが、休日に仲間と一緒にレクリエーションやスポーツ、調理実習などを通して余暇活動の充実や自立を目指しています。（学級生9名） ・スタッフは、公民館職員5名とボランティア8名の計13名です。 ・活動は、月に1回（第3日曜日）行っています。 ・実施日の全てではありませんが、学生のボランティアが参加しています。 ・年度初めに、学級生一人一人から、自分でやってみたい内容、行ってみたい場所などを自由に発言してもらい、その中から1年間のプログラムを決めていきます。 ・活動日は、担当（当番）の学級生が自ら司会進行などを行っています。スタッフは側面からサポートします。 ・学級生が自分で選択して決定できる機会を増やすように心掛け、すべての活動・行事を企画実施しています。 |
| ②活動体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、公民館職員5名とボランティア8名です。ボランティアは、福祉施設職員、会社員、主婦、学生など。青年学級事業に協力的なさまざまな人たちと公民館職員が連携しながら活動しています。 |
| ③活動の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級生の生活の幅が広がり、他の社会参加活動も増えています。 ・公民館まつりなどの模擬店や作品展示に参加し、地域住民とコミュニケーションの機会を得ています。 ・ある学級生の親からは、青年学級に参加していく中で、心が安定してきて笑顔が見られるようになったというお話を聞きました。 ・緊急通報訓練（119番）体験などを通して、急病時でも家族や自らの生命を守る技術を身につけるなど生活の質を高めることに貢献しています。 |

活動の様子

| | |
|---|--|
|  |  |
| 公民館まつり模擬店出店（ポップコーン） | 調理実習（パン・サラダ・プリン） |

プロフィール

| | |
|-----------|-----------------------|
| 所在地 | 埼玉県越谷市 |
| 団体名 | こだま文庫 |
| 活動名称 | 録音図書製作事業等 |
| こんな活動です | 録音図書の製作等 |
| 連携している団体等 | 図書館、社会福祉法人、他のボランティア団体 |

功 勞 者 表 彰

| |
|---------|
| 活動分野 |
| 学習、文化 |
| 主な対象 |
| 視覚障害者 |
| 団体の規模 |
| 会員数 27名 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>視覚障害者への情報支援を目的とした「こだま文庫」は、昭和49年に設立され、録音図書の製作や対面朗読等を行い、そのためのツールである音訳技術の向上に努めている。</p> <p>具体的には、録音図書の製作、対面朗読、視覚障害者を支援する施設や図書館の行事での朗読、音訳等の技術の向上を目的とした講習会に参加、新作の録音図書等を紹介する「図書ニュース」の製作（年12回発行）、新たに入会した会員への講習を実施している。</p> |
| ②活動体制 | <p>平成31年（2019年）4月時点で、27名の会員が、分担して各種の活動を行っている。</p> |
| ③活動の効果等 | <p>平成31年（2019年）3月末までに、410タイトルの録音（デイジー）図書を製作した。</p> <p>また、利用者一人当たり、おおむね月2回、1回2時間の対面朗読では、朗読する内容に制約を設けておらず、私信等も可としており、希望があれば利用者の自宅での朗読も行っていることから、視覚障害者が情報を得るための手段の一つとなっている。</p> <p>さらに、年に数回、市内の視覚障害者支援施設で、朗読会を開催している。また、越谷ゆかりの作家に関する講演会で、作品を朗読しており、講師や参加の市民、市内の大学の学生を含む講演会の関係者に、耳から聞く文学を届けている。</p> |

活動の様子



録音図書の製作



音訳者講習会

プロフィール

| | |
|-----------|-------------------------|
| 所在地 | 埼玉県久喜市 |
| 氏名 | 齊藤 禮子 |
| 活動名称 | 埼玉県立図書館音訳者、デイジー編集者、音訳講師 |
| こんな活動です | 録音図書・雑誌の製作、音訳者の育成 |
| 連携している団体等 | 図書館 |

功 労 者 表 彰

| |
|----------------------|
| 活動分野 |
| 学習、文化 |
| 主な対象 |
| 視覚障害、発達障害、 肢体不自由等 |

活動の説明

| | |
|---------|---|
| ①活動内容 | <p>埼玉県立図書館の音訳者・デイジー編集者として数多くの障害者用録音図書や雑誌を製作すると共に、音訳講師としてそのノウハウを多くの音訳者などに伝えている。</p> <p>昭和59年から35年にわたり、県立図書館の音訳者として医学書などの専門分野の図書や雑誌の製作（平成30年度、音訳活動10件、デイジー編集活動8件）を行っている。その他、音訳技術の継承のため、埼玉県内ばかりでなく、全国の図書館などで講師を務めている（平成30年度、17か所）。</p> |
| ②活動体制 | 埼玉県立図書館及び自宅で活動を行う。 |
| ③活動の効果等 | <p>埼玉県立図書館の音訳者として、小説や読み物以外の専門分野の図書や雑誌の製作を中心に、全国の活字による読書の困難な人に利用してもらっている。</p> <p>各地の図書館などで音訳講師として活躍し、そこで学んだ音訳者・音訳ボランティアが質の高い録音資料製作を行っている。</p> |

活動の様子



音訳の様子



音訳者研修会